八事山文庫

2020・夏

盆供養会／大施餓鬼法会

令和2年(2020)5月［寺報・年4回発行］
発行所 高野山真言宗 別格本山 八事山興正寺

触れる

高野山真言宗
別格本山 八事山興正寺
http://www.koushoji.or.jp
TEL 052-832-2801　FAX 052-832-8383

お伝えしたい
お寺の話　Vol.6

触れる

数十年前まで、お掃除と言えばその多くは雑巾がけでした。小学校でも児童たちは長い廊下を雑巾がけ、家庭のお掃除も雑巾がけでした。もちろん電気掃除機も洗濯機もテレビもない時代です。雑巾を両手で広げ、四つん這いになって長い廊下を走り抜けるのは少々きついが又一面楽しいものであったように記憶しています。雑巾を通して板の感触が手に伝わってきます。直接手が板に触れているわけではないのに板の硬さや柔らかさ、それに温もりのようなものまでが伝わってきます。人の掌はそれほどに鋭敏に感じているのです。

木質だけに限らず、布でも紙類でも手触りがいいという言葉の中にはどこか愛着という心が含まれているようにも思えます。つまり人は、肌で触れるという感覚の中にも心や情緒と言ったものを享けとめているのです。

「触れる」とは、観る聴くと同じく人間に備わっている五感のひとつです。しかし、私は触れるという感覚は、五感の中でも一番に直接的、実体的な感覚であると考えています。触れるとは、とてもリアルな感覚であると思います。

それでは他の感覚はどうかというと、観るとか聞くという感覚は必ずしも直接的でなくても受け止めることができます。例えばテレビで観ている映像も声も音楽も直接的に生の事象を見ているわけではなく、生の声を直接的に聞いているのでもありません。バーチャルな音や映像を見ているにすぎません。しかし、音や映像はバーチャルで受け止められますが、触れるということはテレビでは叶いません。触れたとしてもそれはテレビという機体であってそこに映し出されている事物に手で触れることはできません。

現代人は、テレビやインターネットを通じてニュースもドラマも、スポーツ観戦まであらゆる楽しみを享受しています。しかし、それらは物事に直接触れているわけではありません。寒さの中でサッカーを観戦し応援に加わっているのでもありませんし、炎天下で野球を観戦し応援に加わっているのでもありません。実際には炬燵の中であったり、エアコンの利いた部屋でソファに身を委ねて寛いでいるのです。見ているのはテレビ映像であるのに気分だけは野球を観戦していて仕合せ感に浸っているのでしょう。つまりバーチャルな世界を仕合せと感じているにすぎません。

しかし、家庭菜園や花木を育てるといったことになるとバーチャルではできません。土に手を汚し、汗水流して体力を使わなければならないでしょう。しかし、その実際の中に身体に直接受けとめる仕合せ感があります。

現代人は、あまりにもバーチャルな幸福感に慣れすぎてしまって、掌で触れ身体で享けとめる、リアルな仕合せ感からどんどん遠ざかってしまっているのではないでしょうか。

バーチャルな仕合せ感から、リアルな仕合せを享けとめる感覚への転換、そういう仕合せ感の転換が現代人には求められているのかもしれません。

住職　西部法照（にしぶ　ほうしょう）

岐阜にある法福寺の住職を継いだ後、1998年に渡米。「シアトル高野山仏教会」主任開教師に就任。その後、レドモンド市郊外にシアトル神護寺を開山、住職を10年に亘り務める。帰国後引退し、2018年9月より興正寺の住職に就任。

訂正　2020年春号付2頁の「お伝えしたいお寺の話」本文で、「奥田正三」とあるのは「奥田正造」の誤りでした。尚、増刷分は訂正し発行しております。

お盆期間のご案内

盂蘭盆会

私たちは、ご先祖様、祖父母やご両親、そしてご自身から子々孫々へと、大きな命の流れのなかに生かされています。感謝し、その気持ちをご家族や親しい皆様で受け継ぎ、伝えていきましょう。

◆興正寺では、「お施餓鬼」と「盆供養」を併せてお勤めされることをお勧めしております。伴い、施餓鬼供養と盆供養を同日にご参列いただけます。

◎ 盆合同供養会（七月・八月）
◎ 初盆合同供養会
◎ 大施餓鬼法会
◎ 精霊送り

掲載の予定（参拝方法含）は中止・延期・縮小・変更となる場合があります。最新情報は公式サイト・電話でご確認をお願い致します。

❖お盆の迎え方（一例）

お盆の準備

お盆の月はじめ

お盆の朔日から準備を始めます

● お墓の掃除　● 盆飾りの準備　● 読経を依頼

12日

● お供え物の準備
● 盆棚（精霊棚）の飾りつけ

お盆期間

13日

● お位牌を仏壇から盆棚へ移す　● お墓参り
● 迎え火を焚く　● 御霊供膳の準備

盆提灯に火を灯し、玄関先などで迎え火を焚き御霊を迎えます。御霊供膳は御霊に私たちと同様の食事やお茶をお供えする習慣から、毎日用意をします。

御霊供膳

14・15日

● お墓参り　● 読経　● 会食

16日

● 送り火

「家に帰るのは馬に乗って早く、送りはお供えを持って牛に乗りゆっくりと」の通り、暗くなってから火を焚きお送りします。

※現代では、全てを行うのが難しいことが多くあります。「一部だけ」「お供えは好きだったパン」でも良いので、皆様それぞれの心でお迎えしましょう。

盆合同供養会（七月・八月）

日　時　七月十四日　十三時
　　八月十日～十五日（十二日除）十一時・十三時・十五時
※受付　各回十五分前（法会所要　四十～五十分）

場　所　光明殿二階（受付　一階）

盆供養料　五千円より

施餓鬼塔婆料　六尺 二万円より・五尺 一万円より・四尺 五千円より

申込方法　次頁参照　※施餓鬼供養・盆供養は同日に参列可

大施餓鬼法会

お施餓鬼とは

お盆の供養とお施餓鬼は全く別のお勤めであることをご存知でしょうか？

興正寺では一年を通し毎日お勤めをしている法義です。お釈迦様と阿難の故事に由来し、あの世の「六道」の一つ、「餓鬼道」にいる餓鬼（生前の悪行により餓鬼道へ落ち、常に飢えと渇きに苦しんでいる魂）へ水や食べ物の施し（お供え）をし、その苦しみを和らげ供養をすることがお施餓鬼です。施餓鬼塔婆には、福徳延寿や子孫長久の功徳があるとされています。

日　時　八月二日・八月十六日　十三時
※受付　各回十五分前（法会所要　四十～五十分）

場　所　西山本堂 → **光明殿**

施餓鬼塔婆料　六尺 二万円より・五尺 一万円より・四尺 五千円より

申込方法　次頁参照

初盆合同供養会

初盆とは

特に初盆は忌明け（四十九日）が終わり、故人が初めて帰ってくる大切なご供養となります。ご家族揃ってお迎えしましょう。尚、ご都合が合わず参列が出来ない方は「遙拝供養」にてお申込みください。

日　時　八月十二日　十一時・十三時・十五時
※受付　各回十五分前（法会所要　四十～五十分）

場　所　光明殿二階（受付　一階）

供養料　六尺塔婆含 二万五千円より
　　五尺塔婆含 一万五千円より
　　四尺塔婆含 一万円より
※初盆合同供養会の供養料には施餓鬼供養料を含みます。

申込方法　次頁参照
※当山にご納骨済みの方は、別途、法会日時を指定した申込書をお送りしますのでご確認ください。また、故人にとって初めてのお盆を、ご家族でも習わしに従ってお迎えいただきたく「こもセット」を同梱致します。

初盆供養会の流れ

1. 受付
2. 迎え火
3. 法会（読経・焼香）
4. 法会終了後、施餓鬼塔婆のお納め

興正寺施主慰霊法会
八月十日　十四時半（於　西山本堂）

遙拝供養

ご都合により参列できない皆様には、遙拝供養をお勧め致します。
事前にお申込みください。ご供養し、卒塔婆は當山にてお供えさせていただきます。

精霊送り（しょうりょうおくり）

精霊送りは、お盆にご先祖様の御霊を迎え皆様がもてなした後にお送りする、日本の風習です。迎える為に用意をしたお供えや精霊馬などの盆飾りを敷物（コモ）や袋などにまとめて包んでお持ちいただき読経供養し、ご先祖様をお送りします。お納めの際にお渡しするロウソクは「送り火」として灯します。皆様の揺らぎの灯で、この日の興正寺境内は幻想的な雰囲気です。

※盆飾りをお持ちでない方も、ロウソクを灯しお参りください

日　時　八月十五日　十七時～二十時

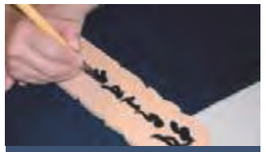
受　付　西山本堂前（当日受付）

供養料　盆飾り一体　千円（ロウソクのみ五百円）

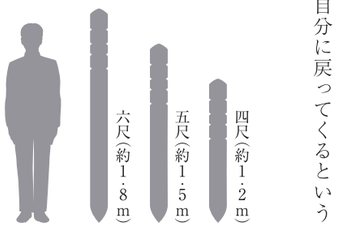
※ロウソクは、名古屋市内の授産施設で制作いただきました。

塔婆とは？

「卒塔婆」の略語で、サンスクリット語のストゥーパがルーツ。お釈迦さまが入滅したあと、その舎利（遺骨）を納めた塔（ストゥーパ）を建てて供養したのが始まり。卒塔婆は、故人や先祖の追善供養（生きている人が亡くなった人に対して行う供養のこと）の目的で建てられます。追善の文字があらわすように、生きている人が亡くなった人の代わりに、この世で行う行為で、その功徳はまた自分に戻ってくるという考え方です。



興正寺の卒塔婆は、1本1本手書きでおつくりしております。



圓照堂ご納骨の方へ

お位牌出し予約

8月10日～16日は「お位牌出しのみ」の対応です。お骨出しは出来ませんので、ご了承ください。

電話　052-832-2801
来寺　圓照堂・納経所にて

締切　希望日前日15時まで

※期間中の個別供養はご希望に沿いかねる場合がございます。事前にお問合せの上ご予約ください。

申込方法・締切

郵送受付（払込）

申込書に記入、返信用封筒で返送。供養料は郵便局より払込。

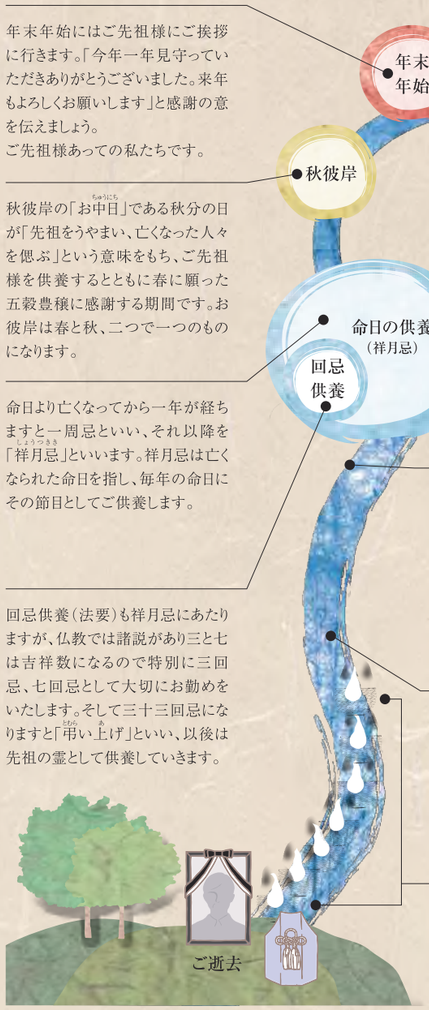
締切
- 盆合同供養会［7月］　7/5締切
- 初盆合同供養会　7/31締切
- 大施餓鬼法会［8/16］7/31締切
- 盆合同供養会［8月］　7/31締切
- 施餓鬼法会［8/2］　7/26締切

来寺受付（現金）

申込書に記入、供養料と共にお納め。

締切　当日
※卒塔婆用意の為、なるべく事前の申込にご協力ください。

亡き人へ、私たちができること



年末年始にはご先祖様にご挨拶に行きます。「今年一年見守っていただきありがとうございました。来年もよろしくお願いします」と感謝の意を伝えましょう。
ご先祖様あっての私たちです。

秋彼岸の「お中日（ちゅうにち）」である秋分の日が「先祖をうやまい、亡くなった人々を偲ぶ」という意味をもち、ご先祖様を供養するとともに春に願った五穀豊穣に感謝する期間です。お彼岸は春と秋、二つで一つのものになります。

命日より亡くなってから一年が経ちますと一周忌といい、それ以降を「祥月忌（しょうつき）」といいます。祥月忌は亡くなられた命日を指し、毎年の命日にその節目としてご供養します。

回忌供養（法要）も祥月忌にあたりますが、仏教では諸説があり三と七は吉祥数になるので特別に三回忌、七回忌として大切にお勤めをいたします。そして三十三回忌になりますと「弔い上げ」といい、以後は先祖の霊として供養していきます。

春彼岸の「お中日（ちゅうにち）」である春分の日が「自然をたたえ、生物をいつくしむ」という意味をもち、ご先祖様を供養するとともに五穀豊穣を願う期間とされます。

お盆には亡くなった祖先や家族の供養を行うのと同時に、餓鬼の供養も行って功徳を積むことで自分にも救いがあるとされています。餓鬼の世界に落ち、苦しむ御霊のために心を込めて食べ物や飲み物などの供物を施し供養する、自身の徳を積む行事です。

古来よりご先祖様が家に戻ってくると言われており、そのためにいろいろな設えやお供え物をして迎えます。旅から帰った家族を迎えるように、ご先祖様を身近に感じ、ご家族揃って一緒に過ごしましょう。

彼岸とは

彼岸は年に2回あり、それぞれ春分と秋分の日を挟む前後3日間を足した1週間を「彼岸」といいます。彼岸の間は私たちの世界と故人の世界が最も通じやすくなると考えられています。その時に併せてお墓参りやご供養をしましょう。

百ヶ日法要

百ヶ日法要とは亡くなってから百日目に行う法要をいい、また卒哭忌（そっこくき）ともいわれ、「卒」は終わること。「哭」というのは、嘆き悲しむことを意味します。「ただ嘆き悲しむのは百ヶ日でやめて少しずつ前を向いていきましょう」というものです。

四十九日（忌明け法要）

亡くなってから四十九日目をもって「忌明け（満中陰）」といい、その日を境に仏の世界へと旅立ちます。皆さんで送り出してあげましょう。

七日経

亡くなってから四十九日間は生と死の間にいます。それを「中陰（ちゅういん）」といい、七日間ごとに仏さまに教えを戴き、忌明け（満中陰）に向けて読経供養を勧めていくものです。

ご供養とは

私たちが亡き人に対してできることは限られます。故人から生前に受けた恩は返しても返し切れません。
せめて亡き人にと想いをはせ、感謝する心が供養だと言えるでしょう。毎日、手を合わせ偲ぶ方、月命日やお彼岸・お盆に欠かさずお参りされる方、供養のかたちは様々です。

◆しあわせ暦ごはん◆

酢味噌そうめん

名古屋郷土料理の酢味噌そうめんは、暑さの厳しい時期にはぴったりの献立です。その昔、興正寺でも夏には甘酸っぱいこの一品をいただいていました。興正寺では酢味噌にだし汁を混ぜた、ぶっかけ風のアレンジも。

材料（2人分）

そうめん……2束	砂糖…大さじ1
みりん……大さじ3	酢……大さじ2
赤味噌……大さじ4	ごま……大さじ1
きゅうり・みょうが・生姜などお好みの薬味	

つくり方

① 鍋にみりんを入れ火にかけアルコールをとばし、火を止めます。
② ①に赤味噌・砂糖を加え混ぜ合わせ、さらに酢を入れ混ぜ合わせます。
③ そうめんを茹で、冷水でしめます。
④ ③を器に盛り、②をかけてごまを振り、お好みの薬味を添えます。

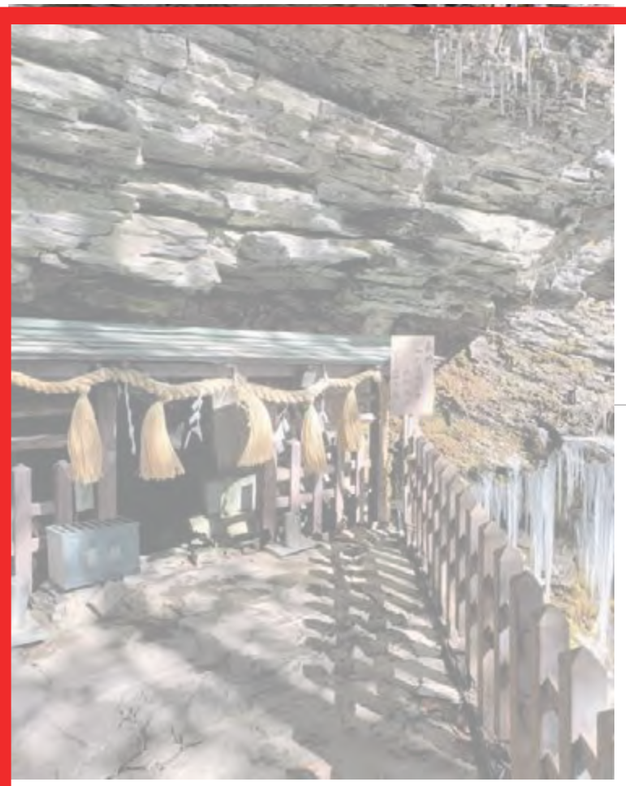
酢味噌を混ぜながら、めしあがれ♪

七月二十八日

団体参拝　興正寺僧侶随行
霊峰「御嶽山」御嶽神社と
行場を詣でる旅（日帰り）

御嶽山は、富士山・白山・立山と並び日本有数の霊峰として知られ、富士に次ぐ高さを誇る美しい山です。後白河法皇の勅使が登山参拝をされたと云われる当時は修験道の場として栄え、十七百年後半に一般民衆に開放されました。以降、今日に至るまで、供養や死後安寧を願い多くの方が登拝しています。今回の旅は、御嶽山頂上の御嶽神社奥社ではなく、麓の遥拝所を参拝後、修験道が修行をした行場を訪ねます。

行　程　七時三十分　集合（興正寺　五重塔付近）
八時　興正寺　出発
九時十五分　恵那峡ＳＡ
十一時四十分　御嶽神社（遥拝所）
十三時　新滝（行場）
十四時三十分　日野百草丸（昼食・土産）
十七時三十分　恵那峡ＳＡ
十九時　興正寺　着
（移動手段　貸切バス・徒歩）

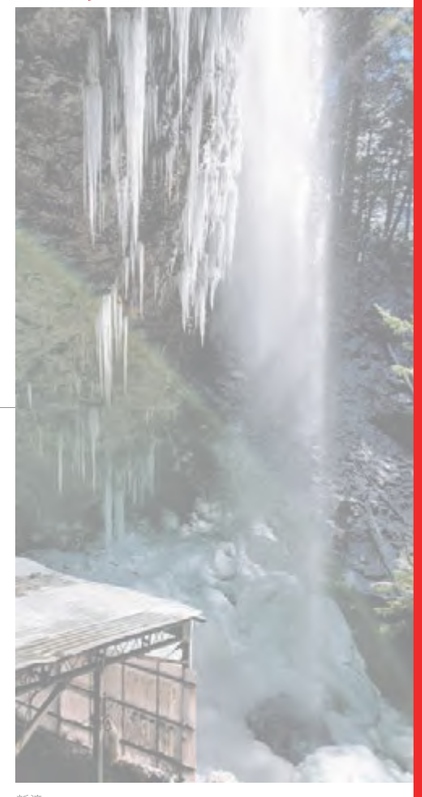

新滝

世相により、本年は中止となりました

随行僧侶　牧野隆真僧侶
旅行代金　一万円（税込・昼食一回含）
申　込　来寺
※払込申込希望の方はお電話ください。申込書・払込票を郵送いたします。
申込締切　七月十日
※締切日に係らず募集人員（四十名）になり次第締切となります。

注意事項
▼ご旅行当日は集合時刻までに受付をお済ませください。▼バス座席および、座席の指定された施設の席割は、団体旅行の円滑な運営の為、興正寺に一任ください。▼旅行スケジュールは運輸期間の都合、天候、道路状況等によりスケジュールの一部が変更になる場合があります。予めご了承ください。▼お料理が変更になる場合があります。▼道路状況等により帰着時間が遅延する場合があります。帰着時間が遅延した場合でも、宿泊費・タクシー代等の負担には応じられません。▼催行人数に満たないときは、ご旅行が中止になる場合もございます。中止の場合のみ、申込締切日以降にご連絡致します。▼お客様都合に拠るキャンセルは、旅行日の十五日前よりキャンセル料が発生致します。

御嶽山登山口「王滝口」


新滝

掲載の予定（参拝方法含）は中止・延期・縮小・変更となる場合があります。
最新情報は公式サイト・電話でご確認をお願い致します。

七月三十一日

子ども寺子屋くらぶ［盛夏］

「板締め雪花絞り」は有松に伝わる伝統の染色技術です。夏の空に映える藍色を自分の手で染めてみる体験です。夏休み真っ盛り。頑張った後は、冷たい冷たいお楽しみがあります。

講　師　竹翠亭
場　所　回廊・耕雲亭
時　間　十時半～十二時
支具料　子ども千五百円（材料・呈茶付）
　　付添　五百円（呈茶付）
申　込　要　五月三十一日より（定員あり）
　　公式サイト・電話（十時～十六時）・来寺

世相を鑑み空間確保の為、2部制へ変更
①9:30受付　10:00～12:00　②13:00受付　13:30～15:30

七月四日

一日修養会

令和二年度は干支守り本尊を学ぶ布薩と題し、境内にお祀りされている干支の守り本尊さまに焦点を当て、おひとりおひとりについて学んでゆきます。（全八回）

第五回　七月四日　勢至菩薩（午年）
第二回　八月七日　大日如来（未年・申年）
※四月四日講座の中止振替日
第六回　九月十二日　千手観世音菩薩（子年）
第七回　十月三日　阿弥陀如来（戌年・亥年）
第一回　十一月七日　虚空蔵菩薩（丑年・寅年）
※三月七日講座の中止振替日
第八回　十二月十二日　普賢菩薩（辰年・巳年）
第三回　一月十七日　文殊菩薩（卯年）
※五月九日講座の中止振替日

講　師　桝田英伸僧侶
場　所　光明殿
時　間　十時～十四時
概　要　供養・勤行→法会→昼食→干支本尊参拝→瞑想（九月十二日・十二月十二日は写経あり）
支具料　二千円（精進料理弁当昼食含）
申　込　要（普照殿受付にて各回三日前まで）

八月四日（旧暦六月十五日）

青葉まつり

真言宗の開祖弘法大師空海のご誕生を祝う法会で、花御堂を設え稚児大師像に甘茶をかけます。ご参加頂いた皆様も甘茶をかけていただけます。

場　所　西山本堂
時　間　十三時
申　込　不要
特別朱印　あり（限定数／一体三百円）

青葉まつり

七月二十一日～二十七日

お寺のラジオ体操

地域の子供会・町内会の皆様と共に、合掌から始まるお寺ならではのラジオ体操で、清々しい朝をご一緒しませんか。

場　所　五重塔前（雨天決行）
時　間　六時半　ラジオ体操
　　六時四十五分　お勤め・法話
　　七時　作務（境内清掃）
申　込　不要（開始前集合）

八月五日

夏安居（げあんご）　結願（けちがん）

五月から八月まで仏教徒として戒律を守っているか否かを戒める夏安居の結願日です。戒律のお経である『梵網経（ぼんもうきょう）』をお唱えし懺悔と持戒の大切さを説いております。

場　所　西山本堂
時　間　九時
申　込　不要

掲載の予定（参拝方法含）は中止・延期・縮小・変更となる場合があります。最新情報は公式サイト・電話でご確認をお願い致します。

八月八日

想耕茶会（そうこうちゃかい）　花氷（はなごおり）の席

真夏日と熱帯夜が続く頃、クーラーも扇風機もない昔の人もなんとかこの暑さをしのごうと、さまざまな工夫をこらしてきました。そんな知恵を今回のお茶会のヒントにしようと思います。

場　所　竹翠亭
時　間　十時・十一時半・十三時半
茶　券　二千円
申　込　要　六月九日より（定員あり）
　　電話（十時～十六時）・来寺

八月十日

観音堂九万九千日（くまんくせんにち）

九万九千日とは、この日に観音さまにお参りをすれば、功徳が九万九千日分にも広がるとされる日です。ぜひ、この勝縁にご参拝いただき、観音さまとご仏縁をお結びください。

場　所　西山観音堂
時　間　法話　九時半
　　法会　九時～十時
申　込　不要

◆九万九千日のぼり幡募集

奉　納　一本三千円
　※当日参拝できない方も、のぼり幡の奉納は受け付けております。

八月十六日

布薩会（ふさつえ）

お釈迦様在世の頃より伝わる法会です。當山で古くから行われている法会の一つで、普段の行いを省み、積み重ねた罪を悔い改める儀式です。ご自分を見つめ直す機会にどうぞご参列ください。

場　所　西山本堂
時　間　十時～十一時
申　込　不要
特別朱印　あり（限定数／一体三百円）

八月二十四日

地蔵縁日大祭（じぞうえんにちたいさい）

場　所　能満堂
時　間　十三時
申　込　不要

八事夢講座（やごとゆめこうざ）

興正寺にも縁が深く、「芸どころ名古屋」の礎を築いたとされる尾張徳川家七代藩主宗春公の素顔に迫ります。（希望回のみの受講可）
後援／名古屋市昭和区役所

安田文吉（やすだぶんきち）
（東海学園大学客員教授）
名古屋市熱田区生まれ。幼少より、常磐津節や西川流日本舞踊などに親しみ、浄瑠璃や歌舞伎など伝統芸能を研究。大学で教鞭をとるほか、著書を多数刊行。

全十二回（令和元年～二年）
第十回　六月十七日　宗春生誕三百年
第十一回　七月十五日　ゆめのあと
第十二回　八月十九日　宗春と名古屋

九月十七日
「三百年前のタイムカプセル
　―新発見の興正寺開山天瑞圓照和尚の足跡―」
講　師　北條献示（元稲沢市教育委員会）
場　所　光明殿
時　間　十三時半～十五時半
　（受付　三十分前より）
申込・締切　要（公式サイト・電話・納経所）
受講料　千円

九月二十六日

子ども寺子屋くらぶ［秋］十五夜お月さん

今年の十五夜は十月一日です。十五夜には十五個のおだんごと里いも、それにススキなどの秋の七草を飾ります。日本人がお供えものなどをしてお月見を楽しむようになったのは江戸時代頃からで、その年の収穫を祝い翌年の豊作を願う意味がありました。秋の澄んだ空気の中で見る月は特別美しく感じます。おだんごを作ってお花を生けて「お月見」をやってみましょう。

講　師　竹翠亭
場　所　竹翠亭
時　間　十時半～十二時半
支具料　子ども　千五百円（材料・呈茶付）
　　付　添　五百円（呈茶付）
申　込　要　七月二十六日より（定員あり）
　　公式サイト・電話（十時～十六時）・来寺

興正寺マルシェ日の21日開催

●初心者のためのお茶会体験

作法を知らない初めての方でも茶会を楽しむことができます。持ち物、服装、お席の入り方、お菓子やお抹茶のいただき方など、初心者の気持に添って丁寧にお伝えするマルシェの日限定の特別枠です。

日　時　毎月二十一日
　　マルシェ茶席の後、十三時半からの一席（予約不要　五百円）
講　師　竹翠亭

「千燈供養会」奉納提灯のご案内

當山最大行事「千燈供養会」にて、参道や柴燈護摩壇の結界等でお祀りしている奉納提灯ですが、痛みが激しくなってまいりましたので、この度、新調を致します。
この機会に、何卒ご奉納賜りますようお願い申し上げます。
施主名を提灯へ書き留めお祀り致します。
また、各ご家庭の家内安全、会社の社運繁栄などをご祈念申し上げます。

受付期間　令和二年　九月末日まで（令和二年千燈供養会よりお祀りします）
受付燈数　限定燈数（受付期間に限らず、数量満了となり次第終了）
奉納料　一燈　五千円

※払込申込希望の方は、申込書・払込票等を郵送致しますので、お電話にてその旨ご連絡ください。
※献灯場所は境内全域となります。希望箇所指定には応じられませんので、あらかじめご承知ください。

●名古屋お茶会スタンプラリー

名古屋市内に茶席をもつ十二施設で開催されるお茶会を巡るスタンプラリーです。九月までの春期がはじまりました。スタンプをあつめると素敵なプレゼントの抽選にご応募いただけます。

◆霊龕堂・圓照堂　ご参拝の皆様へ

霊龕堂・圓照堂の閉堂時間について、左記の通り、改めますのでご案内申し上げます。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

受付時間　九時～十七時（受付最終　十六時半）
閉堂時間　受付最終時間に参拝者不在の場合は、受付最終時間を以て閉堂致します。ご用の方は納経所までお声がけください。
※圓照堂本殿も準ず（納経所八時～十七時）

※彼岸・盆や年末年始などの多くのご参拝が見込まれる時期には、参拝についてのご案内を変更する場合がございます。寺報「八事山文庫」にてご連絡致しますので、お手元に郵送希望の方は、興正寺までその旨ご連絡くださいませ。

◆永代供養納骨堂のご相談について

家族や親戚、誰もが集まりやすい八事の杜がこれからの人生にやすらぎの道を示してくれることでしょう。資料請求は公式サイトお問合せ、もしくは、お電話にて。

祥月忌合同供養会（しょうつきごうどうくようえ）（日程はカレンダー参照）
場　所　西山本堂（圓照堂納骨の方は圓照堂にて）
時　間　西山本堂十三時・圓照堂十三時半
供養料　一霊　五千円より（当日受付）

❖境内・墓地での動物達への餌やり厳禁

動物たちへの心配りをありがとうございます。しかし、人に慣れた猫が他家の墓地に侵入する、糞害で困る等の参拝者からの苦情が増加しています。また、餌を狙うカラスの増加、スズメバチ等害虫の発生や、逆に猫がカラスに襲われたという現象まで起きています。このままでは寺全体が散歩を含む動物類一切の立入禁止という、動物達にとっても可哀想な事になりかねません。どうぞご理解、ご協力ください。

寺のいとなみ

午前五時

「随分と荒れた手だな」
そう思ったのは、いつのことだったでしょう。

世間の音も疎らで色も僅かな時間、寺の片隅の窓明かりを辿ると僧侶がひとり。目の前に沢山の仏飯器と茶湯器を並べ、今朝のお仏飯を拵える姿がありました。「おはようございます」そう私に声を掛けると目線を手元に戻し、慣れた手つきで盛りつけます。拵えたお仏飯を両手持ちに入れ部屋を後にした僧侶は、ガラスのように冷ややかな空気の堂内で、仏さまおひとりおひとりの前にお仏飯を供えていきます。お供えを終えると閼伽場で水を汲み、仏さまのもとへ。その頃には、私の体は暖を取るように足先をすり合わせていました。

閼伽場の傍らの植物を手に取り、葉を丹念に選び「密教では欠かせない植物なんです。」と私へ語りかける日常がはじまりました。

けた乍ら、揃えた三本の指幅に合わせ一枚ずつ葉身を折り、修法の設え準備をすすめます。

その手は赤味を帯び、丁寧に、こともなげに。

朝支度が終わる頃、黎い空が明るくなり始め、今まで見えなかった周囲を見渡せる日常がはじまりました。

毎月御膳

お仏膳には想いが表れると云います。ご自宅へお参りに伺いますと、お仏膳そのものよりも、故人を想う各々のお気持ちを観じます。毎月御膳は、皆さまに代わり興正寺の諸堂におられる仏さまへ毎月五日・十三日にお仏膳のお供えを致します。施主のご芳名を西山本堂に掲げ一年の間、仏さまに見守り頂き、皆さまのお手元には御札を授与致します。

一口　三千円

心の豊かさ

「プチプラ」という言葉をご存じでしょうか。プチプラとは「高級品ではないが安く手頃な良い商品」という意味で用いられ、衣料品や雑貨などを紹介する際に耳にする機会が多いと思います。ですがこの手軽に手に入るということが物を大切にする気持ちを薄れさせる原因になることがあるのではないでしょうか。「ほしいから買う」のではなく「今は必要ではないが安いから買っておく」思い当たる方も多いと思います。私達は大切にするものとそうでないものをどう区別をしているのでしょうか。
好きだから大切、必要だから大切、贈り物だから大切。様々な基準があると思います。

ですが、すべての「物」に共通することがあります。それは大勢の人の働きがあって「物」は私たちの元に届きます。昔は、壊れて使えなくなると修理をして使うのが当たり前でした。物が豊かではなかった時代の人は、物にある「人のご縁」を知っていたのかもしれません。物を大切にすることは多くのご縁に感謝することに繋がります。

形あるものはいつか使えなくなったり、必要がないと感じる時が来ます。その時に私達は「物」にある思い出とたくさんの縁に感謝の気持ちを持つことが、心の豊かさになるのではないでしょうか。

お精抜き（仏壇終い）・お精入れ
ご相談　電話・来寺など
供養料目安　5,000 円より

内観の旅路

私が、興正寺に入山して数十年が過ぎました。

興正寺の境内も様変わりしていますが、四季の移り変わりは、今も変わる事はありません。興正寺でも一年の自然を感じる事が出来ました。

ふきのとうから始まって、梅の花、木の芽、桜、つくし、たけのこ、ふき、ツツジやふじ、梅の実、紫陽花、茗荷、栗、柿、等々を食や目で楽しむ事が出来ました。昨今の境内の変わりようで無くなった物が、多く誠に残念ですが、新しくなった境内も新しいなりに良い物もあり参拝者も興正寺にご縁のない方が、参拝にお見えになり境内の散策や普門園（庭園）の拝観や茶室での呈茶等々を楽しまれ新しい自然とのふれあいを楽しむ事が出来ます。興正寺では、八のつ（やっつ）の音色が聞こえるといわれます、それは、五つの自然の音と寺である境内は、三宝の音（仏法僧）です。

お寺は、癒しの空間が心を穏やかにします。

僧侶　髙橋栄真（文）
９つの歳に興正寺へ入山。興正寺から小学校へ通い興正寺を約半世紀にわたって、八事地域を見守ってきました。檀信徒や参拝者の癒しのお寺である事を願っています。

僧侶　高野正清（文・写真）
昭和６２年生まれ.′０９年に入山。當山では毎月８日に興正寺総本尊「胎蔵界大日如来」の縁日を厳修。年に一度、幟旗を勧募し、１年間祈願を勤めています。

社会に出たり集団の中に身を置いたりすると、いろいろな問題が生じることがある。それらの問題の根本はすべて自身の感情が主な原因だったりする。

お寺の窓口に座っているとたくさんの方とお話をする機会があり、相談を受けることがある。内容は様々だが仏事に関することが多い。相談を聞いていると一つ気づいたことが私は相談を質問と勘違いしていることが多い。なので私はいつも答えを探してしまいがちだ。質問であれば答えを伝えることが大事だが、悩んでいる場合は傾聴することが大切なのかもしれない。相談している人は答えではなく、自身の言葉に耳を傾け、心に寄り添う事を求めている気がした。

仏様は私たちの悩み事を聞き入れ、幸せになるように拝まれている。私も仏様のように人に寄り添い、ともに歩めるような僧侶になりたい。

僧侶　小松永明（文・写真）
昭和５８年生まれ.′０７年に入山。不動明王を祀る不動堂の堂守として従事し、毎月２８日の不動堂縁日では護摩祈祷を厳修。６月の不動堂大祭は多くの参拝者が集います。

「シャカ」は地球語 ―― 先日、高野山米国別院へ七十五日間の研修に行ってきました。現地の副理事長はハワイと日本にルーツを持つブランドン・パリス氏が務めています。

ある日パリス氏は「シャカ」というハワイ式のハンドサインを教えてくれました。親指と小指を立てて、人差し指、中指、薬指の三本を折り曲げて手の甲を見せる形を作ります。そのサインは相手に対して、「元気?」や「頑張ろう」などと親しみを込めた様々なメッセージを表すそうです。

日本で「シャカ」と言いますとお釈迦様を指し、意味は全く異なります。しかし、米国別院内では皆仏教徒であるが故か「シャカムニ」と言い換えて使うようになりました。

同音異義語ではあるけれども、遠く離れた場所で繋がるのはとても不思議な縁ですね。このハンドサイン、「常にお釈迦様が傍らにいて見守って下さっている」現地職員は皆そう思いながら使っています。

興正寺で
出会える、
日本に息づく
おもしろみ。

魅力のカタチ KATACHI

袈裟にこめられたもの

教えをつなぐ

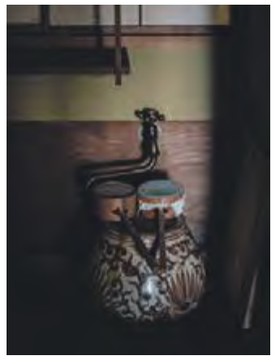
お釈迦様の時代、修行僧が持つことを許されたのは「三衣一鉢（三衣は三種類の衣、一鉢は食事や托鉢に用いる鉢のこと）」のみでした。とりわけ身に纏う衣は捨てられた布の切れ端を継いで一枚の布にし、草木で黄土色に染められた「糞掃衣（糞をぬぐうような粗末な布で作った衣の意）」と呼ばれるものでした。所有物が必要最小限であるのは物欲を捨て去るため。粗末な衣を身に纏うのは衣服への執着や妬みといったものを捨て去るため。お釈迦様の教えは思考するだけでなく、生活の中においても体得されるべきものだったのでしょう。

「鑑真和尚の竺布（二捨五条御袈裟）」は興正寺開山天瑞和尚がその修行のなかで大鳥山神鳳寺の元真和尚より授かったと伝わる品です。よく見ると破れ、擦り切れた小さな布をいくつも集め、丁寧に継いで作られていることが分かります。奈良時代、幾多の困難を乗り越えて来日した鑑真和尚の衣を授かるというのは大変な栄誉であり、その期待の大きさが窺えます。天瑞和尚はその期待に十分に応え、授戒できるものがいなかった尾張の地でそれを求め訪れたものに戒を授け、多くの弟子を導き、興正寺の真言律宗寺院としての存在を確立されました。

教えに触れる

法会や法要のときに皆さんが目にする僧侶の衣「袈裟」は、梵語で混濁色を意味するカーシャーヤに染められたことがその語源とされています。宗派や目的により色、素材、形は異なりますが、現在は捨てるような粗末な布で作られることはなく、布を継いだ形のみが踏襲されています。煩悩多きヒトが自身を戒め続けることは容易ではなく、衣として身に纏うことで精神的にも身体的にもあるべき姿を求め続ける礎となっているのではないでしょうか。

清らかなる水



『清浄』とは、「清くてけがれのないこと、また煩悩や罪のけがれを離れていること」と記されています。その昔、人々は罪や汚れをはらう為に水の力を利用しました。水には物心両面において洗い清める力があると信じられています。現在でも、「みそぎ」という風習があるように、日本人は身体を水で洗い清めることを古より大切にしてきました。また、お寺にお参りする前には、手水舎にて手と口を清めます。この作法は、手や口を洗うのではなく手や口を清めることで自分の心までを清めるために行います。

私たちの生活に欠かせない水はその起源をたどると、天から降ってきた雨を溜めて使用したのが始まりで、これを「天水」と呼びました。天から降る水は、大自然の恵みが込められた天からの贈り物であり、神秘なる力を宿す存在として大切に扱われました。このように水は不思議な力で私たちの命の営みを支えてくれているのです。

美味しくお抹茶を点てる要素の一つに水の存在は欠かせません。昔のお茶会では、遠くの場所まで名水と呼ばれる水を汲みに行ったほどです。最も美味しい飲物の表現に「甘露」という言葉があります。不老不死の霊薬を意味し、永遠の若さを保つ力があると云われています。まさにお抹茶は、お茶の栄養素と水の清浄なる力とを併せた「甘露なる飲物」と呼ぶことが出来ます。

暑さ極まる時季、冷たいお抹茶を飲み干し、爽やかな冷たさとともに抹茶が身体に浸み込んでいくとき、自然と心は清浄となり身体には活力がみなぎります。

「永遠の若さ」とは心の清浄を保つことで得られる「心の若さ」なのかもしれません。

竹翠亭の行事 ◆マルシェ茶席
◆室礼
七夕 六月二十二日
～七月七日
※詳細は十頁

古学び

藍色は日本の夏の色。藍は植物を発酵させたインディゴという色素から生まれます。染料から引き出したばかりのくすんだ緑色は、空気に触れるとみるみる冴えた青に変わります。何度も液にくぐらすことで色が濃くなっていき、染まり具合により「あさぎ」「はなだ」「かめのぞき」など美しい呼び名があります。日本の藍であるタデ科の藍は、薬でもあり、消炎、解熱、虫刺され薬にも使用したそう。今でこそ高価な藍染ですが、昔は庶民の布団も風呂敷も衣類もみんな藍染木綿でした。染の技法もさまざまで、美しい文様を生み出す先人の創意工夫にも驚きます。ちょっと過去を振り返ってみれば、真似したい日本の美しいものにたくさん出会います。「学ぶ」の語源は「まねぶ」。真似るということです。学習の基本は、良いお手本を見つけて真似をすることで、教えてもらうのではなく、自分から真似てみたいことを見つけることともいえます。「いにしえ」とは、過ぎ去った方角のこと。過去はお手本の宝庫です。

親子向け講座 ◆ 子ども寺子屋くらぶ［盛夏］・［秋］ ※詳細は8・10頁

空華翁（くうげおう）の花がたり

この号が出るのは五月二十一日頃と聞いた。旧暦で言うと四月の中旬で春真っ盛り。一年で一番花たちが元気な季節だ。満天星（どうだんつつじ）の小さな鈴のような花からは、シャランと音が聞こえるようだ。初春の頃から境内のこれと似た花をつけていた馬酔木と、春の歌唄いとしての役を終えるや、似たもの同士で名残の二重奏だ。

やがて、里山では初夏の日差しを浴びて姫リンゴが見事に咲く。真っ白なガク（萼）がどこか薄紅色を含んだその白い容は、初々しい美しさだ。

同じ白い花でも、ヤマボウシはどこか凛とした碧色（あおいろ）をその姿に偲ばせる。首に白い布を巻いている僧侶の姿に見立てて、山法師と呼ばれるようになったという。境内のあちこちにあるのは若木だが、どことなく古風な枝振りだ。境内には実は2本、ナツツバキの若い木がある。別名シャラノキ、これまたお寺にぴったりの「沙羅双樹」の木だ。

夏の白い花といえば、思い出すのは半夏生（はんげしょう）だ。白粉（おしろい）を刷いたように見えるから、半化粧とも書くそうな。ビオトープの対岸に、夕闇に白く幽玄な姿を浮かべ、ゆったりと時を過ごす。反対に同じ頃咲く純白の銀梅花（ぎんばいか）は、一日限りの花だ。清楚で潔いその花は「祝いの木」として花嫁に贈られるにふさわしい。

境内にはガクアジサイやセイヨウアジサイなど多種多様な紫陽花（あじさい）がある。中でも新参者アナベルの、白い大きな花の姿は下界に降りた満月のようだ。

「ほれ、遠くばかり見ていると、足下の花を見逃す。足下ばかり注意していると、風の音と相まって聞こえる自然の音を聞き逃す。線香ばかりが寺の香りではないぞ、木や土の香り、その感触に、石ころの輝きに何が感じられる？」

大盤振る舞いの季節の恵みと共に、空華翁の笑い声が聞こえる。

絵　ヤマボウシ
開花　5月～6月
場所　能満堂、その他

八事山古地図探訪

八事山
遍照院
興正寺
境内全図

興正寺の五重塔は文化五年に建立されてから二百二十年程の仏塔です。時代の時々では、名古屋の東南の分岐点としても存在していました。以来、興正寺へは知多四国八十八ヶ所などの札所、毎月の縁日の参拝など、様々な形でお参りの方々が立ち寄られます。

先日、「八十年ぶりか…七十年ぶりにここに来ました」とおっしゃる方と出会いました。

「当時、山を越え、おじいさんに連れられ歩いて、チンチン電車（市電）で八事駅終点で降りて、山の樹木をキョロキョロと見ながら境内に入り、お参りしてから手作り弁当を食べて、飛んでいる虫を大声を出しながら追いかけて走り回って、おじいさんに叱られた覚えがある」と。続けて「七十年ぶりに来る八事は当時とはぜんぜん景色が違って、八事の交差点も昔の面影がないので、案内に従いながら興正寺に到着すると寺も随分と変りましたが、五重塔が目に入ったとたん、ほっとして、八事にきた、興正寺にきたことを実感しました。当時は樹木が多く、森が鬱蒼として昼間でも暗い感じでしたが、今は広々して明るく感じました。興正寺の五重塔だけは昔と変わっていないですね」と、すごく懐かしそうに散策して行かれました。

五重塔（仏塔）は、単なる仏教寺院の建物ではありません。往時のインドや各国の王が最も案じていたのは、治安が不安定になること。その主因は、流行病や疫病でした。

しかし、お釈迦様の遺骨のある処だけは不思議なことに治安が良く、疫病も流行らなかった為、国王たちは、お釈迦の遺骨を欲しがりました。そして、インド・中国・タイなどの各地にお釈迦様の遺骨を納めた仏塔が建てられ、それも、王族も庶民も、皆が遠くからでも祈れるよう高い塔が建てられました。

興正寺の五重塔も仏教の象徴というだけではなく、平和な治安を守るためでもあります。興正寺の七不思議の一つに、「八事山八丁四面の地、疫病はやらず」とあります。最近はウイルスの大きな影響で惑わされますが、どうか、これ以上疫病が拡大しないように願いたい。

五重塔は建立当時より、その時々の治安や疫病から、我々を救ってくださっている仏塔です。

一心祈り、守り、受け継いでいたいものです。

合掌

Chapter 1

ジャパニーズ・愛
JAPANESE EYE

大和の錦

日本人の誰もが持っている、日本人らしい魂。それを一言で言うならば「和の心」ではないでしょうか。
「和の心」の深淵はどこにあるのでしょう？追い求めていくと、やはり聖徳太子作の十七条憲法・第一条「和を以て貴しとなせ」に行き着くのだと思われます。
日本という国の礎（いしずえ）を作ってくださった聖徳太子は、十人の話を同時に聞くことが出来たと言われます。“そんな馬鹿な”と思われるかもしれませんが、一説には「十か国語が出来て、様々な人々の訴えを理解し、的確に導くことが出来たのだ」とも言われています。こう考えると、遥か昔の神話的な偉人も、現実味を帯びた才能の持ち主だったと思えます。それにしても、この才能は今の時代にこそ必要だと思いませんか？
令和時代の現代は世界中との交流が可能であり、いろんな文化・民族が巷間に溢れています。これら、異文化・異民族に対峙した時に、私たち日本人は「和の心」でもって真摯に、友好的に向かい合ってきました。それは親和の心であり、平和の心であり、調和の心なのです。日本人はどんな文化も上手に受け入れ、取り込んで、「和風」に、つまり日本風に仕立て上げる才能があるのです。それは、暴力的に無個性な均質を強要するグローバリズムなのではなく、日本独自のローカリズムに過ぎないのかもしれません。しかしただの偏狭なナショナリズムではありません。日本人の「和の心」とは、いろんな色を無個性な鼠色に混ぜてしまうのではなく、一人一人の個性を上手に受け入れ、引き出して輝かせるのです。まるで、数々の鮮やかな色の糸を上手に織り上げ、美しい綾なす錦に仕立て上げるかのように。「和の心」とは、美しい「大和の錦」の機織り手なのかもしれません。

Every Japanese person has a Japanese soul. If I had to put it in one word, it would be the "spirit of harmony".
What are the depths of the "spirit of harmony"? It seems that if we pursue it, we will end up with Article 1 of Prince Shotoku’ s Seventeen-Article Constitution, “Harmony is to be valued” .
It is said that Prince Shotoku, who laid the foundation of Japan, was able to listen to the stories of ten people at the same time. You may say to yourself, “That's ridiculous,” but one theory is that he was able to understand and guide various people's appeals accurately because he was able to speak ten languages. When you think about it this way, it seems that the mythical great person of a long time ago was gifted with a realistic set of skills. Nevertheless, don't you think this talent is needed in this day in age?
In the modern era, Reiwa, it is possible to interact with people from all over the world, and many different cultures and ethnicities exist on the streets. When confronting these different cultures and ethnic groups, us Japanese have faced them in a sincere and friendly manner with the "spirit of harmony." It is a spirit of affinity, a spirit of peace, a spirit of harmony. The Japanese have a talent for embracing and incorporating any culture, and tailoring it into a Japanese style, so called the “wafu” style. It may not be a globalism that violently enforces homogeneity without individuality, but merely a localism unique to Japan. But it's not just parochial nationalism. The Japanese “spirit of harmony" is not a grey mixture of various colors with no characteristics, but rather an acceptance of each individual's characteristics and drawing them out to make them shine. It's as if the numerous brightly colored threads were skillfully woven and tailored into a beautiful twill brocade. The "spirit of harmony" may be the beautiful "Yamato no Nishiki" (a type of Japanese silk textile) weavers.

Tea ceremony experience [Yagoto-san KOUSHOJI Temple]
Reach beyond time and enjoy the essence of Japanese culture.
The preparation and drinking of tea is central to the culture of Japan. At Chikusui-tei, Matcha tea and confectionary are even more delicious in a fine example of traditional architecture that was built in the Taisho Period(1911-1925).It possesses alcoves to display hanging scrolls and flower arrangements. Why not savor the taste and rich aroma of tea while looking out over a Japanese garden? COST▶A bowl of Matcha tea and a piece of traditional japanese sweets are included in the 500 yen admission fee to enter Fumon Garden. (Open am 10:00~pm 4:00/irregular holidays)

講座のご案内

掲載の予定（参拝方法含）は中止・延期・縮小・変更となる場合があります。最新情報は公式サイト・電話でご確認をお願い致します。

阿息観（あそくかん）
密教の修行法として説かれた瞑想法で、僧侶が心を整えるために行っていました。呼吸方法から座り方など基本動作を学びます。

写経
修行のひとつとされる「写経」。一文字一文字を写すことだけに集中いたします。ひと筆ずつ文字をしたためる時間の中で、自身の心を見つめましょう。

御詠歌入門講座
金剛流御詠歌の入門講座。作法や符の読み方からはじめます。入門編に触れた後には、初級・上級講座も。

仏典読み解き講座
仏典（仏教典籍）とは仏教における権威ある書物のこと。平安時代に書かれた地獄・極楽を詳しく説いた『往生要集』を読み解きます。

和文化体験 いけばな
花のあるくらしは、心もやわらかにしてくれます。季節の草花と向き合い、その日出会った器に生ける。花をいつくしみ生かす精神と基礎を学び、日々を豊かにする体験講座です。（資格取得目的講座ではありません）

TERA・YOGA
ヨガの基本を優しくレッスンします。普段とは違う寺の雰囲気の中で月に一度の自分をねぎらう時間として。

予約は公式サイトの利用が便利です。尚、下記表内、◆印は公式サイトにて、テーマ等の詳細をご確認いただけます。

講座名	時間	場所	講師	開講日｜7月～8月	支具料	申込	備考
阿息観（瞑想・密教禅）							
阿息観	14時～16時	-	杉浦宣秀僧侶	7/10・20・30 8/20・30	無	不要	座禅が組める服装
遊翠の心 阿息観	10時～12時 14時～16時	竹翠亭	西山海良僧侶	7/28 ※8月休講	1,500円	要	座禅が組める服装
写経							
写経写仏はじめて講座	11時～14時 （法話13時）	光明殿	桝田英伸僧侶	7/21・8/21	1,000円	不要	時間内随時 初心者は11時より
遊翠の心 写経	10時～12時 14時～16時	竹翠亭	西山海良僧侶	7/14 ※8月休講	1,500円	要	—
御詠歌入門講座	14時～16時	光明殿	鈴村智弘僧侶	7/4・18・8/1・22	無	不要	—
仏典読み解き講座	10時～12時	普照殿	桝田英伸僧侶	7/24	無	要	㊖筆記用具
遊翠の心 水墨画	14時～16時	竹翠亭	山田静舟	7/17・8/28	2,000円	要	—
遊翠の心 きもの装い	初級10時～12時 応用13時～15時	竹翠亭	竹翠亭	7/1・8/5	2,000円	要	4月開始年間講座
遊翠の心 茶の古典を読む	10時～12時	竹翠亭	桝田英伸僧侶	7/2・8/6	1,500円	要	㊖筆記用具
和文化体験 いけばな	13時30分～15時	-	華道高野山講師 小林弘子・平野裕子	7/16・8/20	3,000円	要	花材代含む ㊖花ばさみ・花合羽
遊翠の心 茶の扉［夏］	10時～12時 14時～16時	竹翠亭	竹翠亭	7/22・8/26・9/30	6,000円	要	全3回講座 申込受付開始5/22
子ども寺子屋くらぶ［盛夏］◆	10時～12時	竹翠亭	竹翠亭	7/31	1,500円	要	申込受付開始5/31
一日修養会◆	10時～14時	光明殿	桝田英伸僧侶	7/4・8/7	2,000円	要	昼食代含む ㊖筆記用具
TERA-YOGA							
レギュラークラス	10時～11時30分	観音堂	西口のぞみ	7/21・8/21	2,000円	要	—
マタニティクラス	13時～14時10分	観音堂	西口のぞみ	7/21・8/21	2,000円	要	—

※㊖＝持ち物　※「遊翠の心」支具料は講座後の呈茶含む　※◆は公式サイトでテーマ等確認ください　※場所変更は当日境内掲示でご確認ください

一月一日～二月二十九日

●初護摩祈祷会

個人並びに法人・団体皆様の新しい年が良き年でありますよう大随求明王の御宝前にて護摩祈祷を勤めました。

法人団体芳名（順不同・敬称略）

名古屋典礼㈱・年末年始出店者一同・匿名・新・米澤屋・プリ・テック㈱・㈱一柳葬具總本店・㈱シュシュブライダル・㈱西田葬儀社・ベイビーシャワー・㈱坪井利三郎商店・㈱玉岡設計・千歳楼㈱

一月十八日

●興正寺 初釜

一陽来復、新しい年を迎えて茶室に陽気が満ちる初釜。濃茶席床にはめでたい軸を掛け、青竹花入に結び柳と紅白椿。薄茶席は干支のねずみに因んだもてなしで。点心席では、関、須多の心尽くしの正月料理を楽しんでいただきました。

一月二十一・二十二日

●職場体験実習［名古屋市立中学校］

職場体験学習で、二年生四名が初弘法準備のお手伝い、八事山文庫の配布、納経所の手伝い等をしました。また、竹翠亭で薄茶の点て方を教えていただきました。充実した体験内容に感謝しています。

※文提供　名古屋市立中学校

一月二十三日

●文化財防火デーの訓練

国の重要文化財「興正寺五重塔」を有することから、毎年一月二十六日の文化財防火デー前後に消火訓練を実施しています。本年は雨天のため、屋内でAEDを用いた訓練を行いました。心臓マッサージには思っていたより力も持続力も必要なことを体感するなど、消防署職員指導のもと実施しました。

一月二十五日

●モミジの植樹

昨年報恩法要の後伐採された、五重塔東のモミジの次世代として、この度苗木を植樹いたしました。各所で育った蘗（ひこばえ）からの一本で、親たるモミジ同様、愛される木に育てと祈念しております。

二月三日

●節分厄除祈祷会・星祭開運祈祷札

節分の朝一年間の災いを受け止めてもらう「星祭開運祈祷札」を加持し、その後自身の厄を寺に撒き厄を除く「節分厄除祈祷会」を勤めました。本年も多くの方にご参拝いただきました。

二月十日

●グランドデザイン懇談会［第四回］

最終回となる今回は「豊かさを体感する興正寺の将来像」について意見交換が行われました。自然豊かな境内に息づく今と昔、そこに集う人々と求められる供養のかたち。今後はそれらに想いを寄せながら、世の動静にも目を向けて境内整備を検討していきます。

●想耕茶会（そうこうちゃかい） 福豆茶席

毎年恒例の節分の日だけに催すユニークなお席です。お茶を焙じて豆と一緒に釜で煮る作法手順も見ものですが、お客様ご自身がお福さんとなって釜の中の豆を掬って、豆の数で福を頂戴したと喜び合います。お席は笑いと拍手で盛り上がりました。

二月二十六日

●護摩祈祷［名古屋市内保育園］

馴染みのある興正寺様で卒園児の成長に感謝し、この先の平安を願う護摩木供養は、恒例行事となっています。燃え上がる炎に目を丸くして小さな手を合わせる姿は美しく、厳かな体験となっています。

※文提供　名古屋市内保育園

●西尾市オープンカレッジ「戦国武将と茶の湯」

今回で三年目となる西尾市オープンカレッジ茶の講座は「戦国武将と茶の湯」と銘打っての六回シリーズでした。信長や秀吉、利休など親しみのある人物とお茶について紐解き、好評を博しました。最終回は西尾にある旧近衛邸でお抹茶をいただきながら、近衛家についても学びました。

三月十四日

●開山忌（かいさんき）

開山　天瑞圓照和尚のご供養と、今年は十八世慈航恵海和尚の五十回忌を西山本堂並びに東山本堂にて、法類寺院の皆様と共に勤めました。

三月十七～二十三日

●春季彼岸会

彼岸合同供養会にてご先祖様に感謝のご供養。二十日には午前に興正寺でお預かりのすべての仏様に供養をし、午後からは人形仏具供養会と動物慰霊法会を勤め、人のみではなくご縁のあった全ての物に感謝いたしました。二十二日には永代祠堂法会を勤修し、永代経位牌をお預かりしている皆様の彼岸供養を勤めました。

三月二十日～四月十三日

●桜花の室礼　桜の紋切り遊び

桜花の席の中止を受け、普門園の桜を見に来てくださったお客様に桜の紋切り遊びをしていただきました。型紙に合わせて和紙を切り抜くだけであっという間に手のひらに桜模様が広がります。桜の命は短いものですが、ひと時、心を浮き立たせてくれました。

三月三十日

●池口恵観大阿闍梨大護摩供

高野山伝燈大阿闍梨　池口恵観大僧正による大護摩供を厳修致しました。

四月八日

●大日堂大祭　華曼茶羅会（だいにちどうたいさい　はなまんだらえ）

今年も多くの方に大日如来の幟を奉納していただきありがとうございました。一年間皆様の願い事を至心にご祈願させていただきます。

四月十三日

●御正当（ごしょうとう）

西山本堂にて、お大師さま（弘法大師）に報恩感謝の誠を奉げる法会が厳修されました。世相を鑑み、当日は僧侶のみのお勤めとなりましたが、早期の疫病終息を併せてご祈願いたしました。

四月二十五日・五月十七日

●十三参り

晴れ渡る空のように澄んだ瞳で十三参りに訪れた子どもたち。健やかな成長への感謝と大人への一歩を踏み出す決意をあらたに、緊張した面持ちでご祈祷にのぞみました。未来の自分に贈る祈念の書を胸に、虚空蔵菩薩より授かった智慧で豊かな人生を切り開いていくことを願っています。

行事のご報告

［一月～四月］

四月三十日

●花まつり
新型コロナウイルスの影響もあり、本堂内は僧侶のみで勤めました。少しでも多くの方に近くで感じてもらえたらと思いフェイスブックでのライブ配信をさせていただきました。早く終息し皆様と勤められることを願います。

他の活動報告［一月～四月］

出張法話
●としわ会昭和区複合型介護施設

茶の湯・阿息観体験・境内散策案内など
●中京大学歴史文化学科［茶の湯体験］
●天白鯱城会平針ブロック会［境内案内・呈茶］
●高年大学鯱城会社会研究クラブ［境内案内］
●高年大学鯱城会旅行クラブ［境内案内］
●ティンカーベル［阿息観体験・呈茶］

会合参加
●八事の森の春まつり実行委員会
●商工会議所観光部会
●中部圏インバウンドセールスプロジェクト

境内施設利用
●宗徧流名古屋支部会
●さくらんぼの会
●NPO法人褥瘡サミット
皮膚褥瘡外用薬学会学術集会
●名古屋市自動車図書館
●ボーイスカウト名古屋第一団

奉納・協賛など［興正寺より］
●こども食品（高杉アトリエ／こども食堂運営）（手ぬぐい寄付）
●児童養護施設南山寮（おさがりのお福分け）

取材・掲載
●サンデージャーナル［テレビ愛知］（2／23）
●UP！［名古屋テレビ］（1／31）
●ホームニュースしょうわ
●タウンニュースてんぱく
●キラッ都ナゴヤ
●月刊なごや
●中日新聞（4／12）

◆志納奉納ご芳名（順不同・敬称略）
［令和元年十二月～令和二年三月］
加藤洋江　五條袈裟二十七領
山路和代　金　壱百萬円
ありがとうございました。
心より感謝申しあげます。　合掌

つむぎたい心

不要不急という言葉に戸惑い過ごす中、息抜きをしたくなり公園に立ち寄った時の事。親子の姿があり、日常か息抜きか、兄弟か友達だろうかと思いを巡らせ眺めていました。

暫くすると、仲良く遊んでいた二人は一つのスコップをめぐり取り合いを始め、一方が取ると一方が取り返すという様相に、これは拗れそう…と見ていると、一方が「どーぞ」と拙い声で譲りました。

その瞬間「あぁ、私は拗れると思っていた。今の私がそのような心持ちなのか」とハッとしました。子どもは周囲の助け合う姿も、困る姿も、その解決方法も、時にはいい加減な姿も注意深く様子をよく観察していると聞きます。この子の周囲の大人は譲れる心を持つ方々なのでしょう。

切迫感に覆われると、分かってあげたいというよりも、分かって欲しいという気持ちの方が勝ってしまいます。私に気付きと笑みをくれた束の間の出会いに感謝し帰路につきました。（東風）

投稿を募集します

皆さまのこぼれ話「つむぎたい心」を紹介します。文章のみの場合は400字以内。写真は2L判までで説明200文字以内、撮影場所、年月を明記。

［送付先］
〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町78「八事山文庫編集係」
氏名・住所・電話番号・ペンネームを明記。 メールの場合は info@koushoji.or.jp
※ 投稿や写真の返却は致しません。採否問合せや回答もお受けいたしません、ご了承ください。

行事カレンダー　7月［文月］

御縁日［毎月］
5日　10時……大隨求明王［露店あり］
8日　12時30分‥大日如来
13日　10時……虚空蔵菩薩［露店あり］
15日　13時……阿弥陀如来
18日　13時……観世音菩薩
21日　10時30分‥弘法大師［興正寺マルシェ］
24日　13時……地蔵菩薩
28日　14時……不動明王

1 水	先負			遊翠の心 きもの装い
2 木	仏滅			遊翠の心 茶の古典を読む
3 金	大安			
4 土	赤口		祥月忌合同供養会（霊・佐・遮・永経・永納・圓） 御詠歌入門講座 7/25へ延期 一日修養会	
5 日	先勝	縁日 大隨求明王［露店］ 干支成満巡り	七月盆合同供養会 申込〆切日 （郵送受付）	
6 月	友引 戌の日			普門園休園日［竹翠亭含］
7 火	先負 小暑			
8 水	仏滅			縁日 大日如来
9 木	大安			
10 金	赤口			阿息観
11 土	先勝			
12 日	友引			祥月忌合同供養会（圓）
13 月	先負	縁日 虚空蔵菩薩［露店］ 干支成満巡り		七月盆
14 火	仏滅			遊翠の心 写経 七月盆合同供養会
15 水	大安	縁日 阿弥陀如来 6世祥月	精霊送り 八事夢講座 └ 7/29へ延期	
16 木	赤口			和文化体験 いけばな
17 金	先勝			9世祥月 遊翠の心 水墨画
18 土	友引 戌の日			縁日 観世音菩薩 御詠歌入門講座
19 日	先負 土用			
20 月	仏滅			阿息観 普門園休園日［竹翠亭含］
21 火	赤口	縁日 弘法大師 ［興正寺マルシェ］ マルシェ茶席		写経写仏はじめて講座 TERA-YOGA
22 水	先勝 大暑			遊翠の心 茶の扉［夏❶］
23 木	友引 海の日			
24 金	先負 スポーツの日			縁日 地蔵菩薩 仏典読み解き講座
25 土	仏滅			安産合同祈祷会 御詠歌入門講座 ※7/4からの延期分
26 日	大安		祥月忌合同供養会（霊・佐・遮・永経・永納・圓） 施餓鬼法会（8/2）申込〆切日（郵送受付） 子ども寺子屋くらぶ［秋］申込開始日	
27 月	赤口			普門園休園日［竹翠亭含］
28 火	先勝			縁日 不動明王 遊翠の心 阿息観
29 水	友引			八事夢講座 ※7/15からの延期分
30 木	先負 戌の日			阿息観
31 金	仏滅		初盆・八月盆合同供養会　申込〆切日（郵送受付） 大施餓鬼法会（8/16）　申込〆切日（郵送受付） 子ども寺子屋くらぶ［盛夏］	普門園休園日［竹翠亭含］ ※休園日になりました

※毎月5・13・21日の縁日は、露店で賑わいます。
※干支成満巡り（受付10時納経所前・無料（朱印代別途））
※緑色文字は講座。詳細確認・予約は公式サイト利用が便利です。
※都合により行事が一部変更となる場合がございます。随時、公式サイトにてお知らせ致します。

朱マークの法会では、特別朱印授与がございます。

行事カレンダー

8月
［葉月］

御縁日
［毎月］

- 5日 10時…… 大隨求明王［露店あり］
- 8日 12時30分‥ 大日如来
- 13日 10時…… 虚空蔵菩薩［露店あり］
- 15日 13時…… 阿弥陀如来
- 18日 13時…… 観世音菩薩
- 21日 10時30分‥ 弘法大師［興正寺マルシェ］
- 24日 13時…… 地蔵菩薩
- 28日 14時…… 不動明王

1 土	大安			御詠歌入門講座
2 日	赤口			施餓鬼法会
3 月	先勝			普門園休園日［竹翠亭含］
4 火	友引			朱 青葉まつり（旧暦六月十五日）
5 水	先負	縁日 大隨求明王［露店］ 干支成満巡り		夏安居（結願） 遊翠の心 きもの装い
6 木	仏滅			遊翠の心 茶の古典を読む
7 金	大安 立秋			一日修養会 普門園休園日［竹翠亭含］
8 土	赤口			縁日 大日如来 想耕茶会 普門園休園日［竹翠亭含］
9 日	先勝			
10 月	友引 山の日		19世祥月 観世音菩薩九万九千日（観音堂）	
11 火	先負 戌の日			興正寺施主慰霊法会
12 水	仏滅			初盆合同供養会
13 木	大安			縁日 虚空蔵菩薩［露店］ 干支成満巡り
14 金	赤口			
15 土	先勝			縁日 阿弥陀如来 精霊送り
16 日	友引			大施餓鬼法会 朱 布薩会
17 月	先負			普門園休園日［竹翠亭含］
18 火	仏滅			縁日 観世音菩薩
19 水	先勝			八事夢講座
20 木	友引			休講 ~~阿息観~~ 和文化体験 いけばな
21 金	先負	縁日 弘法大師［興正寺マルシェ］ 2世祥月		マルシェ茶席 写経写仏はじめて講座 TERA-YOGA
22 土	仏滅			安産合同祈祷会 御詠歌入門講座
23 日	大安 処暑 戌の日			祥月忌合同供養会（圓）
24 月	赤口			縁日 地蔵菩薩 地蔵縁日大祭（能満堂） 普門園休園日［竹翠亭含］
25 火	先勝			
26 水	友引			遊翠の心 茶の扉［夏❷］
27 木	先負			
28 金	仏滅	縁日 不動明王		遊翠の心 茶の扉［秋］申込開始日 遊翠の心 水墨画
29 土	大安			
30 日	赤口			休講 ~~阿息観~~
31 月	先勝			普門園休園日［竹翠亭含］

八月盆（盆合同供養会）

朱マークの法会では、特別朱印授与がございます。

※毎月5・13・21日の縁日は、露店で賑わいます。
※干支成満巡り（受付10時納経所前・無料（朱印代別途））
※緑色文字は講座。詳細確認・予約は公式サイト利用が便利です。
※都合により行事が一部変更となる場合がございます。随時、公式サイトにてお知らせ致します。